

みみちゃんの 学校

みみずくの みみちゃんの 学校は、夕方に なると 「おはよう」
と、たくさんのがみずくたちが あつまつてくる 夜の 学校です。

みみちゃんは、きのう 入学したばかりです。

「一人で 学校に 行けるかな。」

となりの おうちに すんで いる ズークくんに、心ぱいそうに

たずねました。

「よし、それじゃあ、今日は、ぼくが いっしょに 学校に 行って あ

げるよ。」

二人は、小川の ほとりに やつて きました。



みみちゃんの 学校

「みみちゃん、おはよう。どこに 行くの。」

ほたるの おばさん が たずねました。

「みみずくの 学校^{がっこう}に 行くの。」

「そう、気をつけて 行ってね。」

ほたるの おばさんは、お尻の 光^{ひかり}を ともして 二人^{ふたり}を 見おくつて くれました。

しばらく 行くと、たぬきの おじさん^{がん}が ゆっくり に車^{くるま}を ひいて いました。

「たぬきの おじさん、おはようございます。何^{なに}をして いるの。」

「みみちゃん、おはよう。学校^{がっこう}に 野さいを はこんで いるんだよ。みみちゃんたちの ために、おいしい きゅう食^{しょく}を 作^{つく}るからね。」

たぬきの おじさんは 手^てを ふって、二人^{ふたり}を見おくつて くれました。



もうすぐ 学校に つきます。山ねこの しゅじさんかはたを もつて 立つて いるのが 見えました。

「みみちゃん、おはよう。」

山ねこの しゅじさんは、につこりと わらつて 声を かけてくれました。

やつと 学校に つきました。校門の ところに、校長先生が 立つて いました。

「校長先生、おはようございます。」

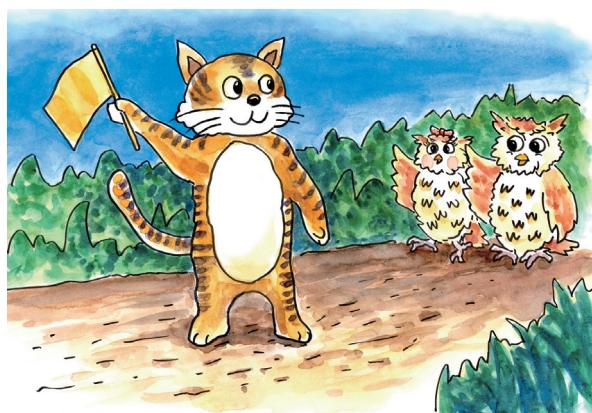
「みみちゃん、おはよう。よく 来たね。がんばったね。」

校長先生が ほめて くれました。

子どもたちが いつのまにか あつまり、にぎやかになりました。

「やあ、ズークくん。おはよう。」

「みみちゃん、もう 一年生ね。わたしたち、まつて いたわよ。」



みみちゃんの 学校

お兄さんや お姉さんたちが、にこにこしながら 言いました。

せんせい
先生が、

「みなさん、今日は 音楽しゅう会です。みみずくの 学校の 校歌を
うた
歌いましょう。」
といいました。

こどもたちは、元気よく 校歌を 歌つて います。ズークくんも、
くちを 大きく あけて 歌つて います。みみちゃんの たんにんの
せんせい
先生や、クラスの お友だちも いっしょです。

きゅう食室からは、いいにおいが しきはじめました。みみちゃんも に
こにこしながら、みんなと おぼえたばかりの 校歌を 歌いました。

(北村 博作) (橋本 ひろみ 改編)

